
調査概要

1. 調査の目的

本調査は、本学学生¹の生活状況等の実態を把握し、学生生活の一層の向上及び教育改善を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の概要

山口大学では 1954 年（昭和 29 年）以降、3～5 年ごとに学生生活実態調査を実施してきており、今回は 2015 年（平成 27 年）に続く、第 18 回の調査である。本調査の結果は、生活環境の実態把握や学生支援等の施策、山口大学の広報等に役立てられてきた。このたびも同様に諸施策の参考資料等として利用いただきたい。

(1) 第 18 回学生生活実態調査委員会

① 発足

2019 年度第 5 回山口大学教学委員会において、「第 18 回学生生活実態調査委員会（WG）」（以下、「調査委員会」という）発足が了承され、調査委員会委員として次の者が委嘱された。

所 属	職 名	氏 名	備考
学生支援センター	センター長	横山 和平	委員長
留学生センター	教授	何 暁毅	
大学教育センター	准教授	林 透	
アドミッションセンター	准教授	林 寛子	
保健管理センター	准教授	山本 直樹	
学生支援センター	講師	辻 多聞	

※組織名・職名はその当時のもの

② 実施

調査委員会は令和元年 12 月 6 日に開催され、調査の基本方針、調査項目の設定等について議論がなされた。

(2) 調査項目・設問の見直し

前回の調査項目（第 17 回、2015 年実施）をベースに、調査委員会、学生支援センター及び教学委員会において、見直しを行った。

(3) 調査方法

これまでの調査方法であった調査用紙の配布・回収から、WEB アンケートシステムを利用する方法に変更した。各学部には、学生へ回答の働きかけについて協力を仰ぐとともに、支援企画係からは修学支援システムの一斉メール送信により、アンケートへの協力を求めた。

(4) 調査対象

在籍学生（大学院生は除く）

(5) 調査期間

2020年度は、新型コロナウイルスが流行し、授業のオンライン化や大学構内への入構制限が実施されたため、当初予定していた前期(7月)での実施を見送り、後期の2020年10月20日～11月18日までを調査期間として実施した。

(6) 回収数・回収率

アンケート回答件数は大学院生を除き、1,579件であった。内訳については(表1)を参照されたい。

(7) アンケートデータのグラフ化と分析、まとめ

WEBアンケートにおいて集計されたデータを基に、学生ワークアシスタントにグラフ作成を依頼し、その後、細かな校正やデータチェックは学生支援課で実施した。

分析についても学生支援課において、回答の傾向から浮かんだ特徴的な事項を数行程度で示した。

最後に、その示した内容を中心に高橋学生支援センター長が報告書全体を総括し、結果概要としてまとめた。

(表1) 在籍学生数及び回答件数

	在籍学生数 (2020/10/1時点で、休学等除く)	回答件数
総数	8,451	1,579
男女別		
男	5,081	685
女	3,370	846
無回答	-	48
学部別		
人文学部	811	199
教育学部	764	204
経済学部	1,461	245
理学部	903	194
医学部	1,178	193
工学部	2,313	220
農学部	414	197
共同獣医学部	192	62
国際総合科学部	415	65
学年別		
1年	1,951	460
2年	1,968	374
3年	2,183	337
4年	2,060	356
5年	140	17
6年	149	26
学年未記入	-	9

結果概要

山口大学教育・学生支援機構
学生支援センター長 高橋 肇

学生生活実態調査では、山口大学に在籍する学生の生活の様子、健康や心の問題、日々の活動や様々な問題意識について5年ごとにアンケート調査を行ってきた。今回は、前回2015年から5年後となる2020年に実施された。2020年度の特徴的な結果について記述する。

家庭状況について、主たる家計支持者が「母」とする割合が少しずつ増加していた。学生の9割近くが自宅外から通学しているが、「住民票」を異動させている学生は2001年以降年々減少している。仕送り額は、2001年から2010年までの間に8～10万円とする者の割合が大きく低下し、4万円以下とする者の割合が増加した。以後、2020年まで同様の傾向が続いている。同時に日本学生支援機構の奨学金を受給している学生は、2001年の25%から2010年の50%へと増加しており、以後、2020年まで同様の傾向が続いている。アルバイト収入は、2010年から2020年にかけて「なし」と回答する者が減少していた。学生の総収入額は、2001年から2010年にかけて9万円以上とする者の割合が大きく減少し、2010年以降2020年まで9万円以下とする者が50%を超えている。

健康状態、睡眠習慣について、「日頃から心身を安定させるために心がけていること」として、「睡眠を十分にとる」と回答する者が増加している。就寝時間は、2005年以降、1～3時と回答する者が減少し、23～1時と回答する者が増加している。睡眠時間は、2020年では7割以上の者が6時間以上をとれていた。

飲酒は、2010年以降、「飲まない」と回答する者が増加し、2020年では40%になった。「一気飲み」を経験した者も2020年で2010年の1/3まで減少した。喫煙は、「たばこを吸わない」とする者が2005年の86%から年々増加し、2020年では93%になった。さらに喫煙者でも一日5本以内の者が半分以上であった。

「現在、悩みや不安がある」とする者は、2005年の85%から年々減少し、2020年では42%であった。その内容については、「就職や進路について」がもっとも多く、「勉強上のこと」が次いで多かった。

「地域の活動」に関わった経験のあるものは、12%であった。

学生生活について、登録した全授業コマ数のうち8割以上に出席しているものは、2001年の74%から年々増加しており、2020年では92%であった。予習・復習にあてる時間は、2010年以降30分未満と回答したものが減少し、30分から1時間30分と回答したものが増加した。パソコンの1日平均利用時間は、3時間以上と回答したものが2020年で増加した。大学推奨ノートパソコンに満足しているものは、2010年の31%から年々増加し、2020年には64%となった。図書館は、2020年になって「利用しない」と回答したものが増加した。試験期間中の利用も1ヶ月に1～2回以下と少なくなっていた。

サークル活動は、サークル・同好会への入会率が 2005 年以降、全体的に年々減少してきたが、とくに体育会系のサークル・同好会で大きく減少した。

インターンシップに参加したことがあるものの割合は 2005 年以降年々増加しており、「わからない」と回答する割合が年々減少してきた。

就職先の条件は、2020 年になって「給料が高いこと」や「休日・休暇が多く余暇を楽しむこと」との回答が増加した。

留学については、「留学をためらう要因」に「不安」に関する理由をあげるものが 2020 年で増えていた。「大学主催の語学研修・交換留学プログラムを選択する理由」についても、「安心度」とする回答がもっとも多く、2010 年度以降増加してきた。

問題意識について、「大学生活において、現在どんなことに力を入れているか？」という質問には、「勉学」と回答したものが 2010 年以降年々増加しており、2020 年には 50% となった。一方、「課外活動」と回答したものは 2020 年に大きく減少した。「山口大学をやめたいと思ったことはあるか？」の質問には、「ある」と回答したものが 2001 年の 36% から年々減少しており、2020 年には 19% となった。